

保育所「若竹の園」倉敷さつき會100年の歴史

－1920年～2020年－

高月教恵¹⁾*

1) 新見公立大学健康科学部健康保育学科

(2022年9月21日受付、11月16日受理)

1920(大正9)年5月、大原壽恵子が発起人となり修養教化団体「倉敷さつき會」が設立され、1925(大正14)年3月、保育所「若竹の園」が開設された。2020(令和2)年5月、「倉敷さつき會」は100周年を迎えた。「倉敷さつき會」100年の歴史を、活動内容を中心に考察した結果、戦前の「倉敷さつき會」の会長はじめ会員は、「各自ノ向上及親睦ヲ計り且ツ應分ノ社会奉仕ヲ為ス」の会則どおり、修養と親睦に努め、保育所開園と同時に、園行事や付帯事業に保育所職員とともに参加し、資金調達をして、保育所「若竹の園」を支えた。「保育の社会化」といわれる今日において、この倉敷の町の一人一人の事実が、町に県に国に「保育の社会化」を拡張する力になったのは確かである。戦後は、児童福祉法の制定によって直接保育所経営に関わることはなくなったが、「倉敷さつき會」創設時の意思は引き継がれ、会長はじめ会員は修養向上に努め、「若竹の園」を支え続けている。そのことによって、「若竹の園」の開園当初の理念「子どもの育つ権利を認めて、育つための環境を整えて、一人一人の人格を尊重して育てる」は、今も変わることなく、引き継がれて実践されている。(キーワード) 倉敷さつき會、大原壽恵子、保育所「若竹の園」、保育の社会化、保育の質保障

はじめに

筆者は、先の研究¹⁾で、1925(大正14)年3月25日に開園した保育所「若竹の園」の当時(大正14年度)の保育日誌や記念誌「若竹の園75年の歩み」・「倉敷さつき會と若竹の園」を中心に、保育所「若竹の園」の設立の理念と当時の保育の実際を明らかにして考察した。その結果、創設期の理念は、令和になった現在まで受け継がれていることがわかった。保育所「若竹の園」の創設期から現在まで「若竹の園」を支えてきたのは、「倉敷さつき會」である。「倉敷さつき會」は、2020(令和2)年5月に100周年を迎え、「倉敷さつき會創立100周年記念誌」が発行された。本稿では、「倉敷さつき會」の100年の歴史に焦点をあわせて、活動内容を中心に、「倉敷さつき會」が保育所「若竹の園」に果たしてきた役割について考察する。

表1 さつき會創設時の会則

會則	
一、名称	本會ハ倉敷さつき會と稱ス
一、目的及び事業	本會ハ會員各自ノ向上及親睦ヲ計り且ツ應分ノ社会奉仕ヲ為スコトヲ以テ其ノ目的トス
一、本會ハ右ノ目的ヲ達スル為メニ左ノ事業ヲ行フ	新年互禮親睦會及年一回ノ總會ヲ催シ臨時ニ講演會又ハ講習會ヲ開催ス 尚都合ニヨリ臨時總會ヲ開ク事アルベシ
一、會員	本會ハ有志ノ婦人ヲ以テ組織ス
一、役員	本會ハ會長一名 副會長一名 顧問若干名 幹事数名ヲ置ク。役員ハ二ヶ年毎ニ改選ス 但シ重任ヲ妨ゲズ
一、會費	本會ノ會員ハ一ヶ年金參圓ノ會費ヲ出金スル義務アルモノトス

出典：『若竹の園 75年の保育の歩み』 p14

1. 戦前の「倉敷さつき會」

1. 「修養教化団体倉敷さつき會」創設期

1) 「修養教化団体倉敷さつき會」の設立²⁾

大原孫三郎(1880-1943、以下、孫三郎)は、1907(明治40)年に父親から倉敷紡績株式会社(以下、倉紡)を引き継ぎ実業家としての俊才を発揮し、石井十次(以下、十次)の岡山孤児院を援助して孤児救済に尽力し、社会教育をは

じめ大原社会問題研究所、倉敷労働科学研究所、大原倉敷中央病院、大原農業研究所を創設し、大原美術館設立など日本文化発展に尽力した。さらに、中国合同銀行(中国銀行の前身)、中国水力電気会社(中国電力の前身)、山陽新聞等の発展にも尽力した。

孫三郎は、文教活動が低調な倉敷のために、1902(明治35)年1月「倉敷教育懇話会」を発足させ、十次に日曜講演

*連絡先：高月教恵 新見公立大学健康科学部健康保育学科 718-8585 新見市西方1263-2

を勧められ、同年12月から「倉敷日曜講演会」を主催した。また、孫三郎は婦人の教養向上のために、「聖書」の講義などをして啓蒙教育に努めた。1902（明治35）年1月上代淑子³⁾（1871-1957）の聖書懇話会が非常に好評だったため、毎月上代淑子を中心とした婦人懇話会を継続し、この会を発展させて一般の婦人に宗教、衛生、家庭、社会等の知識を与え、慈善事業のために働くように導くことは倉敷の町を幸福にすることだと考えるようになり、1903（明治36）年5月に「倉敷婦人会」を設立した。この流れの中で、1920（大正9）年5月22日、大原壽恵子（大原孫三郎の妻、以下壽恵子）が発起人となり修養教化団体「倉敷さつき會」が設立された。

創設時の会則は、表1のとおりである。役員は、会長大原壽恵子、顧問上代淑子、幹事原長、柿原かめの等7名、当初会員は倉紡社員の婦人を中心に79名であった。発会式の会計報告の収入は寄附金1,117円（大原、原、柿原）、会費1,118円（76人分）であった。「倉敷さつき會」の会合は、設立当初（第1回～第5回）は大原家向邸で行われていたが、1921（大正10）年からは大原家向邸を中心に小学校や倉敷高等女学校でも行われたことから、倉紡の社員婦人だけではなく一般市民をも対象としてこの活動を広めたいとの思いがあったことがうかがわれる。つまり、「倉敷さつき會」の社会化である。

2) 講演会

事業として行われた「講演会」は、1920（大正9）年「倉敷さつき會」設立当初から現在まで続いている。

設立当初（大正9年）から「若竹の園」開園当初（大正14年）までに行われた講演会（付表1参照）の内容は、生活に関する内容、教養に関する内容、女性（とりわけ自立した女性）の生き方に関する内容等多方面に亘っている。第14回三田谷啓（1881-1963）「婦人の自由と自覚について」、第30回森戸辰男（1888-1959）「女権の主張—メアリー・ウォルストンクラフト女史—」等、講師の顔ぶれからも孫三郎の人脈によるものであったことがうかがわれる。孫三郎はこれらの講演会を通して、「婦人たち（女性）は一家を守らなければならないが、家事を能率的に終えて時間を作り、社会のために働かなければならない」と訴えた⁴⁾。これらの講演内容からうかがわれる女性（婦人）の人権、中流婦人の責務の自覚は、「倉敷さつき會」の目標であり、「倉敷さつき會」の婦人（女性）一人一人が社会のために慈善事業をすることを願ったことである⁵⁾。

3) 「修養教化団体倉敷さつき會」保育所「若竹の園」設立

1918（大正7）年の米騒動にみられるように、1920年代の初めころは経済不況と働く女性の増加で、子どもの保育問題が社会問題化しつつあった。岡山県では1917（大正6）年5月に「済世顧問の設置」の訓令が出され、「県下市町村ノ防貧事業ヲ遂行し個人並ニ社会ヲ向上セシムルコト」とし

て、第1事業として母性乳幼児保護事業を取り上げ、特に乳幼児・児童保護について指導奨励が行われた⁶⁾。壽恵子は、親が働きに行っている間にほったらかしにされている子どもに心を痛めていた。孫三郎も、この壽恵子の思いに合わせて、社会の状況から保育所を工場外の町内に設けて一般公開して、地域のだれもが利用できるように社会化しようと考えた。1922（大正11）年4月に、壽恵子をはじめ「倉敷さつき會」のメンバーは、孫三郎が十次死後に設立した大阪社会事業「石井記念愛染園」（愛染橋託児所・幼稚園）を視察して、同年5月23日の幹事会において「大原会長より託児所設立の件について諮問があり、会員全員の賛同を得て決定す。…さつき會則の目的に、『保育所及ビ之ニ関連セル事業ノ施設並ニ経営ニ努ム』の条文が加わった」と記されている⁷⁾。さらに同日の幹事会において、富田象吉（愛染橋託児所・幼稚園長、注44参照）の「保育事業について」の講演会が開催され、「倉敷さつき會」の会員は、乳幼児保育に対する知識を深めた。

一方、保育所設立のために、1922（大正11）年5月26・27日に第一回バザーを開催した。その売上高は7,301円17銭（約2,929万円）・純利益3,179円15銭（約1,272万円）であった⁸⁾。バザーはその後も年2回継続して続けられた。篤志家による寄付や賛助金を調達し、実業部売店（大正13年5月）

表2 保育所「若竹の園」事業概要

一目的	中産階級以下の保護者のため、晝間その幼児を預り、親の生業を助け、併せて幼児の心身の適切なる養護につとむ。
一定員	幼児の年齢により園児を月の組（年長）星の組（年少）の二組に分かつ。
一係員	社會部主事 一名 主任 一名 保母 4名（星の組二名、月の組二名）
一保育方針	常に醫師と連携して幼児の發育状態を留意し、適當の教材を以て心身に束縛なき自由保育を行ふ
一保育時間	午前六時より午後六時迄、但し季節により伸縮することあるべし。
一食事	月の組は辦當持参、星の組に當園より中食を供す。兩組とも一日一回の間食をあたふ
一休日	新舊正月各二日、紀元節、天長節、氏神祭、月四回。
一保育料	星の組 一ヶ月 壹圓五拾錢 月の組 一ヶ月 五拾錢 毎月六日迄に納附するものとす、但し事情によりては十日毎に分納するも妨げなし。
一諸會合	家庭の改善又は保育の完成を期するため、随時親の會、又は係員の協議會を開く
一維持方法	さつき會の仕事に依る純益、諸補助金、賛助金、有志寄附金

出典：『若竹の園 75年の保育の歩み』 p26

も開店した。こうして3年がかりで準備をした。

孫三郎は、西村伊作に保育所の設計を依頼し、大原邸の地続きの私有地600坪を寄付し、倉紡は、建設費35000円を寄付して建物を「倉敷さつき會」に無償貸与し、壽恵子が設備費15000円を寄付して、保育所「若竹の園」は完成した。その園舎は、97年たった今もその姿を残している。「森の中のおとぎの国のような園舎」、「かわいらしい夢のお城」と表現されるくらい子どものための子どもの目線に立って建てられた園舎である。1925（大正14）年3月15日に倉敷さつき會保育所「若竹の園」として、保育事業（星組：2・3歳児）を開始し、4月10日に月組（4・5歳児）入園式を挙行了。開園記念講演会では、大原社会問題研究所の高田慎吾（1880-1927）が「児童養育の社会化に就いて」と題して講演している。当初の事業概要は表2のとおりである。初代園長は壽恵子、定員は80名（2・3歳児：30名、4・5歳児：50名）であった。職員構成⁹⁾は、園長の他、主任と保母4名、に運営事務として社会部主事が加わった。保育についての資格が必要とされない時代であったが、専門的知識を身につけた高学歴の保母が保育にあたった。

壽恵子は、「若竹の園第一年報」（大正15年8月）に「沿革」と題して、若竹の園の設立理念、設立経緯および今後の保育所事業への取り組みについて、次のように報告している。「近代の社会的進展は、遂にこの地方小都市たる倉敷にも及んだ。最近数十年に於ける倉敷の社会的経済的発展は、正に産業都市としての特色を中心として遂げられ来たのである。大正九年初めて有志婦人によつて創立されたわが倉敷さつき會も、この社会的情勢に應ぜんがため、且つは会員個々の自覚と相俟つて、産業都市に於ける社会的不幸を減じ、その欠陥を充たさんがため、遂に中産階級以下の乳児並に幼児の保育保護の社会的事業を興さんとすることが、大正11年5月の総会において議決せられ、其後会の幹部は会員の熱心な協力の下に事業の資金調達のため、バザーに、事業部に、その他種々の社会的活動がいとなまれた。此間、倉敷紡績会社当路者の熱心なる後援も亦会の企画の遂行に対しては誠に貴重なるものであつた。…爾來既に一ヶ年余を経過し事業の組織内容の上に種々の改変を見、他方事業と維持方法との上に少なからざる努力と苦心がいたされて来たのであるが、尚進歩せしめらるべき、又改変せらるべき幾多の問題と、研究せらるべき諸種の事項が存在しているのであって、その多くは直接的関係にある保母諸氏は勿論、わが会員各自の今後の努力と工夫に委ねられている次第である。」¹⁰⁾ このことから、倉敷さつき會会則の目的及び事業の社会奉仕は、「産業都市（倉敷）に於ける社会的不幸を減じ、その欠陥を充たさんがため、中産階級以下の乳児並に幼児の保育保護の社会的事業を起こし、実行すること」に決定したことが再認識できる。

また、壽恵子は、子どもらのことを次のような短歌で詠んでいる。「この子らのさきくしあれとひた思ふ 心を持

ちてけふも来てみつ」、
「湯あみ終へて清らかにし子どもらは 神のみ子かもさきくあれかし」。この短歌から、子どもはすべて神様から預かった子どもであり、すべての子どもの人格を尊重して育てなければならないという壽恵子の理念が、開園当初から「若竹の園」にゆきわたっていたと考えられる。

1930（昭和5）年4月25日、壽恵子は病のため逝去した。逝去にあたり当初の中国民報に「淑徳の誉高く、よく家政を整へて内助の功を完うす、一面慈仁の志篤く『倉敷さつき會託児所』はじめ社会事業に力を盡した事は非常なものだ。…」¹¹⁾と報告された。壽恵子の生き方は、主婦として家庭を守りながら、女性の修養向上に努め、自ら社会事業を立ち上げ、力を注いだ見事な一生であった。この壽恵子の生き方が、倉敷さつき會の礎となつて、会長はじめ会員に引き継がれていったと考えられる。

4) 「修養教化団体倉敷さつき會」から「財団法人倉敷さつき會」

壽恵子死後、1930（昭和5）年5月、孫三郎の姪である原長（原澄治¹²⁾の妻）が、「修養教化団体倉敷さつき會」会長および保育所「若竹の園」園長に就任した。「修養教化団体倉敷さつき會」保育所「若竹の園」は、1934（昭和9）年9月倉紡より建物全部の無償譲渡を受け、1935（昭和10）年5月11日内務大臣の許可を得て、組織を財団法人「若竹の園」に改めた。理由は、表3のとおりである。財団法人となつて、社会事業を明示し、経営において理事長職、理事2名、幹事2名、評議員9名、顧問4名を設けた。理事長は、「倉敷さつき會」会長原長が就任し、「若竹の園」園長を兼務した。理事2名は「財団法人倉敷さつき會」副会長2名が就任し、幹事2名及び評議員9名は「財団法人倉敷さつき會」幹事が就任して、保育所の運営にかかわった。顧問4名は、原澄治（原長の夫、倉紡幹部、倉敷町長）、平松俊太郎（倉敷市長）、他、倉紡幹部が就任した。

1943（昭和18）年1月18日、孫三郎が逝去し、孫三郎の事業は長男総一郎に引き継がれた。1944（昭和19）年3月31日、原長が「倉敷さつき會」会長を退任し、同年4月より総一郎の妻眞佐子が会長に就任した。「若竹の園」理事長・園長は、原長がそのまま在任し、任務にあたった。

表3 財団法人設立理由書

<p>私団体ノ自由ナル経営下ニ在リテハ其ノ消長の左右スル處トナリ存立ノ永久ト基礎ノ牢固ハ之ヲ望ム可カラス 遍ク社会ノ理解ト協賛ヲ得ルニ非レハ深く目的トスル所ヲ達シ広ク事業トスル所ヲ行フヘカラス 財団法人トシテ経営ノ独立ヲ計リ社会事業タルノ名ヲ明示センカ既ニ久遠存立強固タル基礎、目的ノ貫徹、事業ノ成果ハ之ヲ望ムコトヲ得ヘシ 財団法人設立ノ理由亦此處ニアリ</p>

出典：『倉敷さつき會と若竹の園 温かき御手にはぐくまれて』 p152

2. 「修養教化団体倉敷さつき會」及び「財団法人倉敷さつき會」保育所「若竹の園」事業

保育所事業について、1926（大正15）年1月12日の若竹の園保育日誌に次のように記されている¹³⁾。「年報（事業報告）午後大原夫人、藤岡夫人、三橋夫人がお見えになり、鯉坂主事、谷崎主任と事務所にお集まり、大原夫人より種々とお話を伺う。続いて今後の方針、計画、希望につき協議申し上げる。開園1か月の報告をする事。大正15年度の計画として、年中行事を極める事、園児の取扱いや日誌を厳重につける事。入園する児の家庭調査を厳重にする事、見学講習に行きし保母の報告をお話しするなり書くなりしてする事」。協議の結果、保育所「若竹の園」の事業計画は次のように決定された。

「①年中行事を計画する。②園児の家庭状況を調べる。③園児の健康状態を把握する。④園児の精神発達状況を調べる。⑤運営の状況を報告する。」¹⁴⁾。

1) 保育所事業計画

①年中恒例行事は、入園式・天長節祝賀式（4月）、児童愛護宣伝日（5月）、舊暦端午祭（6月）、七夕祭（8月）、明治節祝賀式（11月）、新年祝賀式（1月）、紀元節祝賀式（2月）、雛祭・新入園児身体検査・保育證書授与式（3月）であった。大正14年度の保育日誌に、雛祭りでの園長壽恵子やさつき會幹事の活躍と、子どもたちと「倉敷さつき會」メンバーと保母たちとで楽しい雛祭りが行われたことが記されている。戦時下にあっても、「端午祭りに、さつき會を招いて遊戯会をする。防空講習のうたを合唱する。（昭和19年）」との記録が残っている¹⁵⁾。

②園児家庭状況調査は、在園児の住所及び世帯主の職業について調査し、一欄表に明記している¹⁶⁾。

③園児健康状態把握は、囑託医倉敷中央病院小児科医師、眼科医師による検診が年2回、行われている¹⁷⁾。

④園児精神発達状況調査は、倉敷労働科学研究所より、月組（年長組）の園児を対象に、ビネー・シモン氏精神知能検査法によって毎年学年歴の初めにおいて実施された¹⁸⁾。

⑤運営状況報告は年報（事業報告）発行である。支援者への保育の成果報告として、「倉敷さつき會」が作成したと思われる¹⁹⁾。創立から発刊された年報には、事業概要、保育状況、精神検査の成績、健康状態、主要事項、収支決算報告等が克明に書かれている。1937（昭和12）年9月10日には、言論の統制が厳しくなり内務大臣に出版届を提出し、1944（昭和19）年4月18日に廃刊届を提出して同年4月20日の発刊を最後に廃刊となった²⁰⁾。

2) 保育所附帯事業

初年度の付帯事業としては、親の会・近隣者親睦会・家庭訪問、夜学裁縫部、新田農繁期託児所を実施した。

親の会については、1925（大正14）年6月20日に第1回親の会が開催され、年4回開催された。内容は、第1回目「講演及び映画・ラジオ余興」、第2回目「遊戯会 幼児小遣銭

調査」、第3回目「保護者と園児で日間で遊ぶ」、第4回目は「実際状況参観と懇談会」であった²¹⁾。保護者出席者は、第1回目70名、第2回目65名、第3回目64名、第4回目52名であった。親の会の記録は、1942（昭和17）年まで残っている²²⁾。

近隣者親睦会は、1926（大正15）年度に、講演、映画、童謡などをして開催している。参加者は、第1回は1926年5月16日400名（保護者を含む）、第2回は8月1日50名、第3回は9月16日240名、第4回は1月16日40名であった。親の会と合同で行われることが多く、1942（昭和17）年度まで続いた²³⁾。

家庭訪問は、保護者への勧誘のための家庭訪問や欠席児の家庭訪問が頻繁に行われていたことが、日々の保育日誌に記されている。

夜学裁縫部は、1925（大正14）年10月夜間女学部として始まり、1927（昭和2）年3月より夜学裁縫部と名称を変えて月曜日から金曜日までの毎日、午後7時から9時まで、実施した。1931（昭和6）年12月より一時休止し、1935（昭和10）年2月から週三回として1939（昭和14）年度まで続けられた²⁴⁾。

新田農繁期託児所は、1925（大正14）年6月から、新田公会堂で、毎年6月20日頃から10日間行った。「倉敷さつき會」が中心となり、20名が1日2名ずつ交代して任務にあたり、倉敷幼稚園と若竹の園の主任が手伝った。1938（昭和13）年には倉敷婦人会と連合して行い、1939（昭和14）年より炊事婦を「倉敷さつき會」より1名派遣している²⁵⁾。1942（昭和17）年6月18日から27日を最後に、この事業は終わっている。

その他、子供会、児童相談所、古着バザー、妊婦健康相談も実施した²⁶⁾。

子供会は、小学校の校長と相談して、1927・1928（昭和2・3）年度は毎日、1929（昭和4年度から年2・3回開催。途中4年間は中止しているが、1942（昭和17）年度まで続けられた。今の学童保育である。

児童相談所は、倉敷中央病院小児科・歯科の協力のもと、1928（昭和3）年4月から1941（昭和16）年度まで実施された。

古着バザーは、「倉敷さつき會」バザーとは別に、1930（昭和5）年から第二次世界大戦の初め頃まで6回行われた。

妊婦健康相談は、倉敷市医師会、倉敷市産婆会の後援を得て、1940（昭和15）年5月から毎月、1942（昭和17）年度まで実施された。

3) 保育所の運営

社会的に助成措置のない時代に開所された保育所の運営は、賛助金とさつき會会員によるバザーと実業部売店「さつき店」の収益に支えられていた。

① バザー

1922（大正11）年5月23日～1925（大正14）年3月15日開園

までは年2回、各回とも

2日間開催された。開園後（大正14年）から1940（昭和15）年からは年1回2日間となり、1941（昭和16）年は年1回1日の6月8日を最後に開催は中止された²⁷⁾。

1922（大正11）年の第1回バザーは、倉敷婦人会や他の団体も加わり100名を超える応援者で開催された。「倉敷さつき會」は、主として委託品（県下で有名な呉服店、履物店等）、倉敷さつき會特売品、食堂、抹茶席を催した。1922（大正11）年～1931（昭和6）年頃までは、バザーとともに仏国名画展、大原コレクションの展示、児島虎次郎の作品も展示され盛大に行われた。1932（昭和7）年～1940（昭和15）年までは、孫三郎と親交の深かった日本工芸巨匠たちの芸術品も出品され盛大であった。1941（昭和16）年は戦争の影響で物品不足となって1日のみの開催となり、1942（昭和17）年より中止した²⁸⁾。

バザーの様子は、1926（大正15）年より山陽新報で紹介され、1929（昭和4）年からは写真入りで紹介された²⁹⁾。1932（昭和7）年10月1日には中国民報より「けふ愈よ蓋開け倉敷の鳥取新民藝展」と題して紹介され、1933（昭和8）年5月25日は「倉敷新溪園に陳ぶ藝術品 社会事業の基本金募集として…さつき會バザー」と題して次のように紹介されている³⁰⁾。「倉敷さつき會は大正14年3月15日大原孫三郎氏の夫人故すえ氏が中心となって倉敷紡績会社関係夫人をもつて組織した社会事業団体で若竹の園を始めとして農繁託児所^ア、販売部幾多事業を起こしているが、中にも若竹の園は、開設以来順調な発展を遂げ、現在では原長会長並びに四名の保母が百三十一名の園児を預かり、所謂一般労働者が安心して就労することができるよう毎日午前八時から午後六時まで一切の世話をやき年年五千余円の浄財投じ、尚ほ^ア農繁託児所を開いている。かうした社会事業の基金募集のため毎年市内新溪園で大バザーを催し各方面からの賛助のもとに経費の幾分を補ってきたが、本年特に国展審査員芹澤銈介氏の型染座布団…等多数の出品を筆頭に満谷国四郎氏の色紙、中村憲吉氏の短冊、島根民藝品等の特別出品があり、従来其の例を見ざる内容充実したバザーで、堂々たる芸術展の貫禄を示すべく今から大人気を呼んでいる」。さらにバザー開催の5月28日には、写真入りで、「顧客団体一統々殺到！ けふ日曜日も雑踏を予想するさつき會バザー」と題して、「…開会第一日は早朝から岡山市婦人会員二百七十名を筆頭に五千余名の顧客が殺到し、押すな押すなの盛況ぶりであった。さらに第二日も日曜日…」とその盛況ぶりを報じている。また、其楽堂（倉敷）3代目店主後藤正志は、「倉敷さつき會」創立100周年記念誌において、「倉敷文化協会の人々の尽力もあり倉敷さつき會のバザーという形は発展していき、日本民芸館を東京駒場に開館させる運びに至ったと思います³¹⁾と記している。

これらのことから、孫三郎の人脈による巨匠たちの作品

寄贈も多く、いかにバザーが盛況であったかがうかがわれると同時に、バザーが保育所運営の重要な資金源になっていたことはいまでもないことであったといえよう。そして、バザーを企画、運営した倉敷さつき會会員の働きぶりは目を見張るものであったと思われる。

② 実業部売店「さつき店」

実業部売店「さつき店」は、1924（大正13）年5月に倉敷市本町の林薬局の隣に開店した。事業内容は、子供向け玩具（フレール^アの恩物・積木）、日用品、仕立て（2階にミシンを置き倉敷高等女学校夏・冬制服）、バザーの売れ残り商品であった。「倉敷さつき會」会員が、ミシンを踏んで制服等の仕立てに忙しくがんばっている様子が目に浮かぶ。戦時下は、生活用資源が配給となり、経営困難となり、1943（昭和18）年に閉店した。

③ 賛助金・補助金

篤志家による賛助金は、孫三郎はじめ原澄治、柿原得一、藤岡幸二や林源十郎等の倉紡関係者や孫三郎の関係者によるものであったことが記録に残っている³²⁾。「倉敷さつき會」会員は個別に足を運んで賛助金を集めに回った。

補助金については、1927（昭和2）年からは岡山県社会事業補助奨励金、1931（昭和6）年からは宮内省から御下賜金を受けようになり、公的助成を少しずつではあるが受けることができるようになった。

「若竹の園」の運営に関する会計報告は年報で詳細に報告された。1929（昭和4）年度の収入は、保育料932,25円、賛助金3085,00円、補助金（バザーを含む）3680,00円、寄付金7,00円、雑収入586,17円で計8290,32円であった。総収入8290円32銭に対して保育料1割、賛助金4割、補助金（バザー含む）4割、その他1割であった³³⁾。1942（昭和17）年度の収入は、保育料960,60円、賛助金2310,50円、補助金1690,00円、寄付金748,08円、雑収入126,36円であった。バザーがなくなった分、昭和17年度の補助金が少なくなり、財産収入1400,11円と繰越金216,72円を加えて計7452,37円であった。昭和17年度の補助金は、御下賜金、厚生省、岡山県、倉敷市、さつき會、軍人援護、三菱となっている。³⁴⁾

これらのことから、篤志家による賛助金とバザーによる補助金が大きな収入源となって保育所「若竹の園」の運営は支えられていたといえよう。

④ 戦時下の寄贈

「若竹の園」は、1942（昭和17）年には食糧が不足し、1943（昭和18）年は食糧不足で給食を中止している。「大原家から菓子、原家からうどん、倉敷さつき會関係者からさつまいも、メリケン粉、漬物、果物、果物、野菜等が毎年寄せられた³⁵⁾と日記に記されていることから、戦時下にあっては、倉敷さつき會会員は食糧品を寄贈して保育所を支えている様子がうかがわれる。

3. 保育所開園後の講演会（新年互礼会・総会・見学会・児童研究会・幹事会含む）

保育所「若竹の園」開園後の講演会は付表2のとおりである。

新年互礼会³⁶⁾は、保育所「若竹の園」開園後も毎年1月に開催され、会員は講和を傾聴して親睦会が催された。1937(昭和12)年は飛行機献納資金への献金のため中止し、1938・1939(昭和13・14)年は非常時局により中止された。1944(昭和19)年新年互礼会は取り止め、沖縄挺身隊慰安会、津山慰安会を行い、1945(昭和20)年も同様に取り止め、鳥取挺身隊慰安会(1月22日)、作陽女子商業慰安会(1月23日)を行った。

「倉敷さつき會」主催の講演会³⁷⁾は、1925(大正14)年から1927(昭和2)年まで年5回開催され、6月に総会及慰労会が開催された。1928(昭和3)年から1938(昭和13)年まで年3~4回(総会及慰労会含む)開催された。1938(昭和13)年の日誌に、「6月に行われる総会は、バザーの慰労会を兼ねて開かれていた」³⁸⁾と記されている。1939(昭和14)年から1942(昭和17)年まで年2回(総会含む)、1943(昭和18)年、1944(昭和19)年は年1回総会のみ開催された。1945(昭和20)年のみ記録がないことから、開催されなかったと思われる。1927(昭和2)年から開始された総会では、必ず講演会が開催されている。講演会の内容は、開園前と同様に、生活に関する内容、教養に関する内容、女性の生き方に関する内容等多方面に亘っている。「倉敷さつき會」会員は、講演を通して、多方面に亘っての女性としても教養を身につけていったと思われる。

見学会等として、1925(大正14年)からの記録が残っている³⁹⁾。主催は倉敷さつき會である。1925(大正14)年8月2・3日、1926(大正15)年7月23・24日に、近隣子どもたちや人々を対象に「納涼観月会」を開催し、菓子店、玩具店、氷店、アイスクリーム、コーヒー店を開き、ラジオ音楽が流れ余興として映画映写が行われた。大正15年8月1日から7日まで、倉敷婦人会、倉敷處女会と合同で、衛生週間として宣伝のピラ2万枚を撒き、5日には衛生写真展を開いている。1930(昭和5)年11月22日にさつき會会員のみで大原美術館落成前見学をし、その後1930(昭和5)年から1935(昭和10)年まで、見学会は年1回実施された。1943(昭和18)年11月には萬寿工場を見学し所長の講演を聞いて、「戦争の苛烈なる時局の重大性をひしひしと身にしまして、我々婦人としての銃後に於ける責務の大いなるを痛感し、今後の決心と覚悟とをかたく誓った次第である」⁴⁰⁾と感想を述べている。

児童研究会が、1927(昭和2)年から1931(昭和6)年まで、子どもについての認識を深めるために、年1回開催された⁴¹⁾。

以上のことから、戦前の「倉敷さつき會」の会長はじめ会員は、会則どおり、新年互礼会・総会・講演会に積極的に参加して修養と親睦に努め、保育所開園と同時に、園行

事や付帯事業に保育所職員とともに参加し、資金調達のためにバザーを開催し、さつき店を経営し、さらに個別に足を運んで賛助金を集めに回って、保育所「若竹の園」を支えた。幼児保育史研究の第一人者である湯川嘉津美は、壽恵子と「倉敷さつき會」会員のことを次のように評している。「大正9年に自ら発起人となって倉敷さつき會を設立して、『会員各自ノ向上及び親睦ヲ計リ且ツ応分ノ社会奉仕ヲ為ス』ことを目的に、各種講演会・講習会を開催し、大正11年にはさつき會による保育所の設立を決定し、その開設準備を行った。大正14年の『若竹の園』の設立後は園長として保育事業のみならず、付帯事業として親の会、農繁期託児所、夜学裁縫部、子供会、児童健康相談、同窓会、バザーなどに積極的に取り組み、教育・保育事業を中心とする地域の生活改善に尽力しており、それらは大原寿恵子と彼女を中心としたさつき會の業績として、幼児保育史上の評価がなされてしかるべきであろう」⁴²⁾。同時に、壽恵子死後、壽恵子の意思を引き継いで、すべての事業を継続、発展させた原長はじめさつき會会員の功績も高く評価されるべきことである。そして、「保育の社会化」といわれる今日において、この倉敷の町の一婦人団体の事実が、町に県に国に、「保育の社会化」を拡張する力になったのは確かである。

II. 戦後の「倉敷さつき會」

1. 戦後の「倉敷さつき會」

「倉敷さつき會」の会長は、1944(昭和19)年4月より就任した大原眞佐子(孫三郎長男総一郎妻、以下眞佐子)である。財団法人「若竹の園」の理事長兼園長は原長であったが、戦後、児童福祉法制定(昭和22年)に伴って、1948(昭和23)年に児童福祉施設としての認可を受け、理事長と園長兼務を解き、園長を別に定め、主任保母が園長に就任した。原長は引き続き理事長の任務に就き、1964(昭和39)年3月に理事長を退任した。

1964(昭和39)年4月、眞佐子が財団法人「若竹の園」の理事長に就任して、「倉敷さつき會」会長と兼務した。2005(平成17)年1月、眞佐子は「若竹の園」名誉理事長となり、大原謙一郎(大原総一郎・眞佐子長男、以下謙一郎)が理事長に就任した。

2011(平成23)年4月1日より、公益法人制度改革に伴って、財団法人「若竹の園」は社会福祉法人「若竹の園」となった。名誉理事長は眞佐子、理事長は謙一郎、理事4名、監査2名、評議員9名(倉敷さつき會幹事)が就任した。眞佐子は、「倉敷さつき會」会長を67年間、「若竹の園」理事長を47年間(名誉理事長含む)務めて、同年5月16日に逝去した。

翌年の2012(平成24)年4月1日より、大原あかね(謙一郎長女)が「倉敷さつき會」会長に就任した。2016(平成

28) 年6月より、謙一郎が社会福祉法人「若竹の園」の最高顧問になり、大原あかねが理事長を兼務し、現在に至っている。

2. 戦後の「倉敷さつき會」の活動

戦後の「倉敷さつき會」の主な活動は、講演会（新年互礼会・総会）とバザーである。賛助金については、児童福祉法の制定（昭和に22年）により措置制度が確立されたことにより、賛助金の募集は1952（昭和27）年度で終わっている。しかし、有志篤志による支援は平成27年まで続いた。

1) 講演会（新年互礼会・総会）

新年互礼会は、1946（昭和21）年から3年間中止し、1949（昭和24）年より再開している。「戦後第1回目の新年互礼会は、1949（昭和24）年1月6日午後1時半より『若竹の園』で開催された。講演会は、精思高等学校津枝校長「現下の厳しい時局について私共の心構えについて」、余興として福引きがあり、会后眞佐子会長の案内で前日開館された前神の民芸館を視察した」⁴³⁾との記録が残っているが、その後、1964（昭和39）年までの記録は残っていない。1965（昭和40）年からの新年互礼会の記録は、付表3のとおりである。

総会・講演会は、戦後1946（昭和21）年から再開している。戦後第1回～第3回総会・講演会について、次のように記されている。「戦後第1回の総会は、7月1日午後1時より『若竹の園』で開催された。事業並会計報告後、倉敷中央病院内科医長遠藤仁郎博士『緑葉食に』の講演があった。さらに同年11月20日午後1時より『若竹の園』にて、近藤鶴代衆議員議員『議会に臨みて』の講演があり、来会者は40名であった。午後4時過ぎ閉会后、幹事一同女史をかこんで時局問題につき質問し、明快な回答指導を戴き5時過ぎ散会した」⁴⁴⁾。「第2回総会は、1947（昭和22）年6月20日午後1時より『若竹の園』にて、『会費の件』と『さつき會今後の歩みについて』協議後、東方牧師『キリスト教信仰について』講演があった。さらに同年12月2日午後1時より『若竹の園』にて、生長の家剣持晴子『体験談』講演会が開催された」⁴⁵⁾。「第3回総会は、1948（昭和23）年6月10日午後1時より『若竹の園』にて、東京阿佐ヶ谷教会宮崎能樹牧師「子どものしつけについて」の講演会が開催された」⁴⁶⁾。これ以後の記録は、1964（昭和39）年まで、残っていない。1965（昭和40）年からの総会・講演会の記録は、付表3のとおりである。2020（令和2）年5月に、倉敷さつき會100周年記念講演会が開催される予定であったが、コロナ禍において中止となり、2023（令和5）年1月に新年互例会（講演会）が再開される予定である。

戦後から現在（昭和25年から昭和39年資料不明）に至るまでの講演の内容は、従来と同様、生活に関する内容、教養に関する内容、生き方に関する内容等多方面に亘っている。「倉敷さつき會」の会員は、講演会を通して教養を身につけ、会員同士の親睦を深めていったと思われる。

2) バザー

戦前、戦後と不況が続き、バザーは1942（昭和17）年から1946（昭和21）年までは実施されなかった。

戦後第1回目のバザーは、1947（昭和22）年6月1日（日）9時～午後5時、「若竹の園」にて再開された。「…開場前から待ちかねてたママ人達で玩具店、飴店はしばらく賑わったが、期待したより来場者が少く、次の開催準備について考えさせられるものがあった。併せ売上高は相当多く会の内外の皆の御援助と会員一人々の働きの場と厚く感謝日を終わった」⁴⁷⁾との記録が残っている。

さらに、1948（昭和23）年5月29日（土）午前9時～午後4時「若竹の園」で実施された記録は次のとおりである。「食堂 アイヤクリーム、抹茶、コーヒー、もなか、桜餅、おすし、しるこ。委託売店 荒物、石鹸、果物、下駄、うちわ、お菓子。未明3時から起きておすしの支度をして下さる方もあり案じたがお天気も上々でバザーの朝は美しく明けた。売場の模様も昨年よりかわり店番にも今年は若竹の園PTAの方達も加わって下さり来場の方々もずっと気楽であった様である。来場者は割に少なかったが食堂は大繁盛で午後になると準備していた物は、殆ど品切れになる程で短い間の準備であったが、よきバザーの一日であった。会の内外の方々の有形無形の御力添えを深く感謝する」⁴⁸⁾。

戦後のバザーは、「若竹の園」で実施され、食堂、売店（さつき會会員による手作りの品）を中心に開催されていた様子がうかがわれる。1948（昭和23）年からは、「若竹の園」の保護者も協力してバザーに加わっている。それ以後、1965（昭和40）年までの記録は残っていない。現存している1960（昭和40）年からのバザーの記録は、付表3のとおりである。バザーは、1960（昭和40）年以降は、1・2年おきに開催され、1990（平成2）年まで続けられた。その後から現在までは、保護者主催になり、さつき會は出品協力という形になっている。

5代目園長溝手美津枝は、バザーと篤志家の支援について、「児童福祉法制定により、若竹の園は認可1号になりました。…しかしまだまだ園児の処遇を満たす状況ではなく、「倉敷さつき會」のバザー、篤志家の支援はその後も続けられ増築、補修工事等の特別出資に大いに助けられた」⁴⁹⁾と述べている。

以上のことから、戦前と変わらず、「倉敷さつき會」会長はじめ会員は講演会（新年互礼会、総会）を通して、教養を身につけ、会員同士の親睦を深めた。

戦前の倉敷さつき會は、バザーやさつき店経営や賛助金を集めて保育所の資金調達に努めなければならなかったが、戦後児童福祉法の制定（昭和22年）により、経営は国・県・市の行政措置に助けられて保育所経営に直接かかわるということはなくなった。しかし、バザーを開催して、1990（平成2）年からは保護者主催のバザーに出店協力とい

う形で参加して、「若竹の園」を支援し、その資金は増築や補修工事等に役立てられた。「若竹の園」を支えなければという思いは、今もなお「倉敷さつき會」会員に引き継がれていると考えられる。

戦後から現在に至るまで、「倉敷さつき會」の目的「各自ノ向上及親睦ヲ計リ且ツ應分ノ社会奉仕ヲ為ス」が、設立者初代会長壽恵子、2代目会長原長から引き継がれ、現在まで存続したのは、やはり、67年間「倉敷さつき會」会長を務めた眞佐子の存在が大きく影響していると思われる。「大原眞佐子様を偲ぶ会（平成23年10月20日）」案内状に「…倉敷さつき會が今日まで継続されましたのも、偏に会長さまのお人柄と並々ならぬ尽力によるものと、感謝の気持ちでいっぱいでございます。…」⁵⁰と記されている。また、偲ぶ会発起人挨拶では、「大原眞佐子様は67年の長きに亘り倉敷さつき會を支えて下さいました。…新年互例会、総会、バザーと倉敷さつき會の行事には努めて出席され、会員とのふれ合いを大切にされました。…総会はバス旅行が恒例で…与島のベゴニア園まで車椅子でおいで下さったのが、印象的でした。…毎年1月の新年互例会には、お寒中努めてご出席下さいました。新年に会長様のお元氣なお姿と穏やかな微笑みに接しますと、本当に心安らぐ思いでございました。年頭のご挨拶に時として前年の出来事や社会情勢にも触れられ、示唆に富んだ含蓄のあるお話を頂きました。敬虔なクリスチャンでいらした会長様は、ご挨拶の最後に必ず会員のみならず家族にまでお心を寄せて下さり、その年の幸せをお祈り下さいました。会長様の凛としたお姿に、会員たちはどれほど励まされたことでしょう。…」⁵¹と述べられた。5代目園長溝手美津枝は甲電に「凛々しさと厳しいお姿のなかに、常にお言葉になさっていたのが『先生方はお元氣ですか。子供達に困ったことはありませんか。』とお優しいお気遣いでした。私たちはそれを支えに心ゆくまで保育に専念することができました。…」⁵²と記している。6代目園長榎原芳子は「さつき會の方々が眞佐子様にあこがれ、どんなに慕われていたかは、さつき會の方々の様子を見れば一目瞭然でした。私たちは、いつもその様子を見てきました」と語る。

これらのことから、眞佐子は、凛として優しく、思いやりの深い、見識のある人格者であったことがうかがわれる。戦後から現在に至るまで、「倉敷さつき會」が存続し、若竹の園の設立当初の理念が引き継がれて発展してきたのは、やはり会長眞佐子の存在があればこそといえよう。

まとめ

「倉敷さつき會」100周年を迎えるにあって、会員から寄せられた思いが、「倉敷さつき會創立100周年記念誌」に掲載されている。内容の一部は次のとおりである。眞佐子会長在任時に入会した会員は、「元会員の方から…倉敷さつ

き會の入会のお誘いの手紙をいただきました。…大原眞佐子前会長からも丁寧なお手紙を頂き、身の引き締まる思いで入会させて頂いたことを思い出します。…社会とのかかわりが薄かった私ですが、倉敷さつき會を通して倉敷の文化、芸術に触れ、思いがけない経験や多くの人との繋がりを得る事が出来、100周年を皆様と共に祝いできる喜びと感謝の気持ちを申し上げます⁵³」と述べている。親から引き継いで入会した会員は、「数々の講演や演奏会、日帰りの旅などを一緒に楽しみながら多くの事を学びました。若竹の園を見守りそして教養を身に付けるという目的を持った素晴らしい会が、百年を迎えたことに感慨深いものがあります⁵⁴」と言って、今後も続くことを願っている。また、4世代続いた会員は、「故郷倉敷に戻り居を構えて、倉敷さつき會にお誘いを受け、小さい頃、祖母や母から聞かされていたバザーの話などが思い出されて、懐かしく入会させて頂くことにしました。倉敷さつき會としてのバザーは既に無くなっていましたが、…倉敷さつき會の年間行事、年の初めに開催される新年互礼会で講演会や演奏会、春の総会を兼ねた小旅行、若竹の園の園児との交流、楽しく一緒にさせてもらっています。現在倉敷さつき會に嫁と私で参加しています⁵⁵」と述べている。さらに、評議員を務めた会員の長女からは、「母の晩年の約5年間を…共に暮らし、倉敷さつき會に出席する母に何度か同伴させていただきました。創立当時の理念が脈々と引き継がれ、倉敷の文化的土壌の要として社会的貢献という役割も担われた女性組織。若竹の園卒園児の私にとって倉敷さつき會は尊敬と憧れの存在でした。平成23年3月、母は評議員を97歳で退任し、会長大原眞佐子様への敬愛も深く、「世のため人のために」が信条であった母にとって、その任を心から感謝していたことと思います⁵⁶」と、亡母のことを思い出しながら述べている。

これらのことから、会員は、会長眞佐子を深く敬愛し、「倉敷さつき會」は「若竹の園」を見守りながら教養を身につけることを目的とした会であることを自覚して、「倉敷さつき會」に参加することを楽しんでいる様子が見られる。また、「若竹の園」の卒園児の言葉から、子ども心にも、「倉敷さつき會」は優しく、温かく、憧れの存在として記憶に残っているようである。

「倉敷さつき會」の目的「各自ノ向上及親睦ヲ計リ且ツ應分ノ社会奉仕ヲ為ス」が現在まで引き継がれたのは、大原壽恵子会長を始めとして、原長会長（大原孫三郎の姪）、大原眞佐子会長、大原あかね会長と4世代に亘って、大原家の女性子孫によって受け継がれたことが、大きな要因であると思われる。そして、会員もまた、世代に亘って会員となって活躍していることから、其々の世代の会長の教養の高さと人徳の深さに憧れていたことだったと思われる。

「若竹の園」の門を入ると、大きな樟の木や榎の木、そして西村伊作が設計したインドのベンガル地方にあるバ

ンガロー様式の園舎が目に入る。園舎は、2009（平成21）年4月に登録有形文化財に認定されたが、今もその園舎で保育が行われている。創立時1925（大正14年）80名だった園児数も、1936（昭和11）年度140名、1940（昭和15）年度150名、1956（昭和31）年度175名、1964（昭和38）年180名、1971（昭和46）年からは乳児保育（0・1歳児）も実施されて園児数は220名となり、現在に至っている。園児数が増えるたびに増改築されたが、創立から97年経った今も昔のおもかげを残したままである。「子どもの『育つ』権利を認めて、『育つ』ための環境を整えて、一人一人の人格を尊重して育てる」という開園当初の理念が現在まで引き継がれたのは、やはり「倉敷さつき會」の後ろ盾があったからこそだと痛感する。現園長津田礼子は、「新年互礼会でさつき會に参加して、園の報告をする時はとても緊張します。しかし、さつき會に報告しなければと思う気持ちに支えられ、保育に専念してがんばってきました」と感謝の気持ちを語っている。このことから、「倉敷さつき會」は「若竹の園」の保育の質を保障してきたといえよう。

保育学研究第一人者の宍戸健夫は、保育園（保育所）誕生の系譜を、「幼稚園から保育園へ」、「児童保護事業から保育園へ」、「公立保育園の誕生」として、「幼稚園から保育園へ」の「二葉幼稚園」⁵⁷⁾（東京）に並ぶ、石井十次の児童保護事業（岡山孤児院）の流れをくむ石井記念愛染園幼稚園・託児所⁵⁸⁾そして「若竹の園」と評している⁵⁹⁾。湯川嘉津美は、「当時の諸外国における幼児保育の動向とその影響をうけて成立した幼稚園令⁶⁰⁾との関連で「若竹の園」の幼児保育史上の位置を捉えるならば、「若竹の園」は幼稚園令に先んじていただけでなく、諸外国の幼児保育、とくにイギリスの「保育学校」に近い幼児の保護と教育の施設として成立していたといえるだろう」と、世界的視点から「若竹の園」を位置づけている⁶¹⁾。

「倉敷さつき會」創立時79名だった会員数は、現在39名（2020年）である。会員数の減少は、会員の高齢化によるものと思われる。そして、女性の生き方が、「家を守り、社会に奉仕することが美德」とされた時代から、この少子化と女性の人権保障からも「女性が社会で働く」、ひいては「女性が働かなければ社会の経済は成り立たない」時代へとパラダイムチェンジした。今後、「倉敷さつき會」をどのようにして存続させるかは大きな課題である。それを解決することは、「若竹の園」の問題だけでなく、日本の保育の質保障のあり方に示唆を与えるものと考えられる。

おわりに

筆者は先の研究⁶²⁾で、孫三郎の「労働理想主義」と「共同作業場」理念が保育所「若竹の園」の創設にどのように具体化されているのかについて研究した。労働理想主義とは、『正しい行い正しい労働』を行えば結果として富がえ

られる』、共同作業場の理念とは、『小作人と地主の利害を一致させる』、『労働者と資本家の利害を一致させる』つまり『工場の利害を地域の利害と一致させる』ことである。孫三郎の経営理念が労務管理に生かされた結果、労働者の労働環境に各段の配慮をし、労働者の健康を管理し、そして子育てを背負った女子労働者のために託児所をつくった（1908年）。それを社会化して、工場内託児所が保育所「若竹の園」として設立された（1925年）。孫三郎は、女性（婦人）の人権、中流婦人の自覚は、「倉敷さつき會」の婦人一人一人が社会のために慈善事業をすることを願っていたと思われる。「倉敷さつき會」の活動もまた、孫三郎の「正しい行い正しい行動」を行うことによって神に救済、つまり「召命」されるという労働理想主義の具現化であったと考えられる。そして、子どもの人権が保障された子どものための「夢の城」保育所「若竹の園」の園舎は、倉紡の女子労働者用の宿舎や男子労働者用の社宅と同じように、工場で働く女子労働者にも男子労働者にも、そして子どもたちにも大切なのだと訴えた孫三郎の「共同作業場」理念を体現するものであった。このような孫三郎の考えが、保育所「若竹の園」の経営に携わった妻の壽恵子をとおして具現化されたと考えられる。そして、壽恵子自身もまた、父石井栄太郎の地域貢献の影響を大きく受けた人であった。湯川嘉津美は、壽恵子の父石井英太郎について、次のように紹介している。「父石井栄太郎は、広島県深津郡深津村（現福山市東深津町）に総出資額の15/87口を出資して英太郎の所有地に深津啓蒙書所（深津小学校）を設立し、広島県会議員（初代議長）、福山中学校（現福山誠之館高校）の初代校長を務めた。その後、深津村農会会長、広島県農工銀行頭取などを歴任した。…」⁶³⁾。そして、「石井英太郎が…教育事業を通じて地域に大きな貢献をなしたように、大原壽恵子も倉敷さつき會や若竹の園において教育・保育事業を展開し、地域貢献活動を行ったのであった」と述べている⁶⁴⁾。

今一度、孫三郎と壽恵子の「倉敷さつき會」設立の理念に立ち返って、今後の「倉敷さつき會」のあり方について考えたいと思う。

本稿では、講演会については、資料整理に留まり、深く考察することができなかった。今後の課題にしたい。

謝辞・付記

本研究にあたり、貴重な資料を提供していただきました「倉敷さつき會」及び「若竹の園」の皆様には謝意を表しますとともに、心よりお礼申し上げます。

本稿は、日本保育学会第73回大会で発表したものを加筆修正したものである。

本研究は、令和2～4年度日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究C、研究課題「戦後の保育所『若竹の園』にみ

る幼保一体化カリキュラム・保育実践に関する歴史的研究所」、課題番号20K02432（研究代表者高月教恵）による成果の一部である。

文献・注

- 1) 拙著：倉敷さつき會保育所「若竹の園」設立の理念と保育の実際。幼児教育史研究, 11, 38-53, 2016.
- 2) 修養教化団体倉敷さつき會設立については、拙著の前掲書, 41-46に加筆修正したものである。
- 3) 上代淑子は、愛媛県生まれ。父（牧師）、家族で大阪に転居。梅花女学校卒業後、山陽英和女学校（岡山、現山陽学園）に赴任。1893（明治26）年山陽英和女学校を退職後、アメリカ留学。帰国後、再び1897（明治30）年山陽英和女学校に再就職、1908（明治41）年山陽高等女学校校長に就任（37歳）、51年間校長を務めた後、1959（昭和34）11月病没。キリスト教徒で、山陽学園の教育理念「愛と奉仕と感謝」を築いた。孫三郎は、教育者として、人格者として上代を尊敬し、婦人懇話会に招き、以後講師として上代を中心として婦人懇話会を継続し、「倉敷婦人会」を設立した。その意思を引き継ぎ、寿恵子が修養教化団体「倉敷さつき會」を設立した「倉敷さつき會」を、上代は、設立当初から顧問として、会長壽恵子を支えた。
- 4) 溝手美津枝編：倉敷さつき會と若竹の園 温かき御手にはぐくまれて。財団法人若竹の園, 60, 2010.
- 5) 安川悦子, 高月教恵編著：養育の社会化－パラダイムチェンジのために－。御茶の水書房, 28, 2014.
- 6) 岡山県保育史編集委員会編：岡山県保育史。フレーベル館, 67, 昭和39年.
- 7) 若竹の園記念誌編集委員会編：若竹の園 75年の保育の歩み。財団法人若竹の園, 16, 2000.
- 8) 当時の貨幣価値1円を約4000円として換算した。
- 9) 溝手美津枝編, 前掲書, 88.
- 10) 溝手美津枝編, 前掲書, 93.
- 11) 林良子：大原恵子・寿恵子－大原家を支えた女性たち－。倉敷の歴史, 29, 58, 平成31年.
- 12) 原澄治は1907（明治40）年倉敷紡績株式会社入社、1909（明治42）年孫三郎の姪原長と結婚、原家を継ぐ。1915（大正4）年取締役就任、社長孫三郎の側近として補佐する。1917（大正6）年岡山県済世顧問制度の最初の済世顧問となり貧困者救済に尽力。1918年～1924年名誉倉敷町長の就任、文化・教育・福祉に尽力。1960（昭和36）年倉敷名誉市民。若竹の園創立以来、常に運営を支えた。
- 13) 倉敷さつき會創立100周年記念誌編集委員：倉敷さつき會創立100周年記念誌。倉敷さつき會, 11, 令和2年
- 14) 倉敷さつき會創立100周年記念誌編集委員：前掲書, 10.
- 15) 溝手美津枝編：前掲書, 161.
- 16) 若竹の園記念誌編集委員会編, 前掲書, 26. 溝手美津枝編, 前掲書, 106-108.
- 17) 若竹の園記念誌編集委員会編, 前掲書, 27. 溝手美津枝編, 前掲書, 103.
- 18) 若竹の園記念誌編集委員会編, 前掲書, 28. 溝手美津枝編, 前掲書, 104-105.
- 19) 倉敷さつき會創立100周年記念誌編集委員編, 前掲書, 11.
- 20) 若竹の園記念誌編集委員会編, 前掲書, 54.
- 21) 溝手美津枝編, 前掲書, 134.
- 22) 若竹の園記念誌編集委員会編, 前掲書, 63.
- 23) 同上.
- 24) 若竹の園記念誌編集委員会編, 前掲書, 64.
- 25) 溝手美津枝編, 前掲書, 138.
- 26) 溝手美津枝編, 前掲書, 136-144.
- 27) 溝手美津枝編, 前掲書, 128-133.
- 28) 溝手美津枝編, 前掲書, 128-133, 209-225.
- 29) 溝手美津枝編, 前掲書, 209-212.
- 30) 溝手美津枝編, 前掲書, 214-217.
- 31) 倉敷さつき會創立100周年記念誌編集委員編, 前掲書, 5.
- 32) 溝手美津枝編, 前掲書, 155.
- 33) 溝手美津枝編, 前掲書, 153.
- 34) 若竹の園記念誌編集委員会編, 前掲書, 56.
- 35) 溝手美津枝編, 前掲書, 161.
- 36) 溝手美津枝編, 前掲書, 174-179
- 37) 溝手美津枝編, 前掲書, 181-198.
- 38) 倉敷さつき會創立100周年記念誌編集委員編, 前掲書, 32.
- 39) 溝手美津枝編, 前掲書, 199-203.
- 40) 溝手美津枝編, 前掲書, 203.
- 41) 溝手美津枝編, 前掲書, 204.
- 42) 湯川嘉津美：「若竹の園」の幼児保育史上の位置。幼児教育史研究, 11, 55, 2016.
- 43) 溝手美津枝編, 前掲書, 180.
- 44) 溝手美津枝編：前掲書, 198.
- 45) 同上
- 46) 同上
- 47) 溝手美津枝編：前掲書, 226.
- 48) 溝手美津枝編：前掲書, 227.
- 49) 溝手美津枝編：前掲書, 232.
- 50) 倉敷さつき會創立100周年記念誌編集委員編, 前掲書, 22.
- 51) 同上書, 23-24.
- 52) 同上書, 24.
- 53) 倉敷さつき會創立100周年記念誌編集委員編, 前掲書, 6.

- 54) 同上書
- 55) 倉敷さつき會創立100周年記念誌編集委員編、前掲書、7.
- 56) 同上
- 57) 二葉幼稚園は、野口幽香（女子高等師範学校卒）と森嶋峰によって1900（明治33）年に設立された貧民子女のための慈善幼稚園（東京）である。麴町の借家で6人の子どもから始めた幼稚園は、1906（明治39）年四谷鮫河橋に移転して200名以上（乳児含む）となり、1916（大正5）年二葉保育園と名称を変更し、現在も創設者の意思が受け継がれ、二葉くすのき保育園・二葉乳児院・二葉学園・二葉むさしが丘学園・二葉南元保育園・自立援助ホームトリノスとして実践されている。日本の保育所の源流である。
- 58) 石井十次は1909（明治42）年大阪愛染橋に愛染橋保育所、愛染橋夜学校、日本橋同情館（無料職業紹介所）を開設し、岡山孤児院の職員だった富田象吉が任にあたる。1914（大正3）年十次死後、孫三郎は従来の保育所を改組拡大して建物を新築して1916（大正6）年「石井記念愛染園」とし、乳児の託児所、幼稚園、尋常小学校、保母養成所、救済事業研究室（大正8年大原社会問題研究所に発展）を設けた。園長は富田象吉である。
- 59) 穴戸健夫：保育園（保育所）の歴史のなかで「若竹の園」を考える。幼児教育史研究、前掲書、33-35.
- 60) 幼稚園令とは、1926（大正15）年に発布された、日本ではじめての幼稚園に関する独立した勅令である。幼稚園の目的を「幼稚園ヲ保育シテ其ノ心身ヲ健全ニ発達セシメ善良ナル性情ヲ涵養シ家庭教育ヲ補フ」と定めた。
- 61) 湯川嘉津美、前掲書、62.
- 62) 拙著：大原孫三郎「若竹の園」創設の背景と理念－「労働理想主義」と「共同作業場」理念に焦点をあわせて、第1回大原孫三郎・総一郎研究会報告書、有隣会、23-24、2013.
- 63) 湯川嘉津美、前掲書、56.
- 64) 同上

付表1「倉敷さつき會」主催 講演会（講習会）

—1920.5～1925.4—

年月日	論 題	講 師
1920.5.20	倉敷さつき會発會式挙行（発會の辞・講演）	大原壽恵子・上代淑
1920.7.17	日常食品の栄養について・夏季衛生に就いて	那須左馬子・辻緑
1920.8.10-11	和洋料理	安藤久松
1920.10.24	子どもを善良にする法	三田谷啓
1921.1.5	新年互禮親睦會（挨拶・講話）	壽恵子・孫三郎
1921.3.6	如何にして子供を強く賢く善良に育つべきか	三田谷啓
1921.5.9	芸術に関する話	児島虎次郎
1921.6.19	人解放と社会改造	浮田和民
1921.9.21	欧米婦人の實際生活	斉藤謙平
1921.10.9	家庭教育の基礎	高橋平三郎
1921.11.14	児童洋服	由良とめ
1922.1.7	新年互禮親睦會（挨拶・講話）	壽恵子・原澄治
1922.2.4	平和の原理	山下信義
1922.3.12	婦人の自由と自覚について	三田谷啓
1922.4.12-16	大阪社会事業全般視察（愛染園含む）、壽恵子、原、柿原、三橋、笠石、藤岡	富田象吉（案内）
1922.5.23	保育事業に就いて	富田象吉
1922.6.15-16	洗濯について	古賀 祐
1922.9.27	欧米の視察を終えて	小林商学士
1922.10.12	見学会「大原奨農會と合同銀行」	
1922.11.15-17	講習會「洋服下着裁縫」	高木鐸子
1923.1.5	新年互禮親睦會（挨拶・講話）	壽恵子・孫三郎
1923.1.16	欧米を觀て我国婦人に望む	井上秀子
1923.4.1	講習會「フランス刺繍と編物」	小野貞子
1923.5.26-27	託児所設立の為のバザー開催	富士貞吉
1923.7.6	いかなる食物を選ぶべきか	坂部
1923.7.19	女中慰安會「夏季台所の衛生に就て」 「女中の心得について」	斉藤謙平 倉敷町婦人團體
1923.9.4.9.27	震災慰問 関東大震災	倉敷児童保護協會、婦
1923.10.27	健康児審査を行ふ	人会、虚女会合同主催
1923.11.26-28	講習會「支那料理」	倉敷中央病院医師
1924.1.7	新年互禮親睦會「オーケストラについて」	笹倉定次
1924.1.20	我等は如何に生くべきか	石井遵一
1924.2.14-15	西洋料理講習會「家庭簡易西洋料理」	山下信義
1924.3.8-9	欧米旅行の真相、女權の主張—メリー・ウォルストンクラフト女史—	相澤西松 森戸辰男
1924.5	さつき會總會「親睦のための募狩」・講話	上代淑
1924.6.27	青年期の子女を持てる母親のために	三田谷啓
1924.7.7-8	婦人の地位改善と法律	末広巖太郎
1924.9.26	欧米視察談	橋本富三郎
10月毎火土、11月毎土	講習會「編物」	実原
1924.10.28	優良児共進會と講話「婦人の口腔と顔面美」 「小児病氣・手当と予防」	倉敷児童保護協會、婦人会、虚女会合同主催、倉敷中央病院医師
1924.11.22	無教育者の教育又月夜の学校	安井哲子
1925.1.5	新年互禮親睦會（挨拶・講話）	壽恵子・孫三郎
1925.4.26	保育所開園記念講演會「児童養育の社会化に就いて」	高田慎吾
1925.5.2-3	託児所開園記念バザー	

▶出典「倉敷さつき會と若竹の園」22-82、「若竹の園 75年の保育の歩み」15-19.

会場は、第1回～第5回は大原家向邸、第6回は女学校講堂（講演会を一般にも開放）、以後は、大原家向邸、第6回は女学校講堂、それ以後は大原家向邸、倉敷高等女学校、小学校、新溪園等であった。

付表2 「倉敷さつき會」主催 講演会(講習会)・バザー —1925.6~1949.1—

年月日	論 題	講 師			
			1933.1.5	新年互礼会親睦会(挨拶・講話)	原長会長・上代淑
1925.6.15-16	蔬菜調理講習会	一戸伊勢子(東京女子師範学校講師)	1933.5.27-28	さつき會バザー	
1925.10.1-5	洋服講習会	武居花子(大阪星華会 手芸研究会長)	1933.6.8	現代婦人を見て雑感	坂本鶴子
1925.11.27	1. 皇孫殿下の御降誕を寿ぐ 2. 此の忙しき世の中に立ちて	服部峻治郎(倉敷中央病院小児科)	1933.7.27	古着バザー	
1925.11.28	1. 米国の主婦より学ぶべき諸点 2. 日常生活と理学	板野八重子 生沼曹六(岡山医大教授)	10月毎火土、11月毎土	毛糸編物講習会	江口壽恵
1925.11.29	1. 上代婦人と和歌 2. 精神分析について	中村憲吉(歌人) 桐原葆見(倉敷労働科学研究所)	1934.1.6	新年互礼会親睦会(挨拶・講話)	原長会長・上代淑
1925.12.18	毛糸編物の講習会	黒岡	1934.3.12	生活の態度と見方に就いて	桐原葆見(労働科学研究所)
1925.12.26	奥田式裁縫公開講習会	奥田艶子(東京奥田裁縫女学校校長)	1934.5.26-27	さつき會バザー	
1926.1.10	新年互礼会親睦会(挨拶・談話)	原長会長・斎藤諸平(倉敷小学校校長)	1934.6.17	ありのまま	板野八重子
1926.2.16	音楽会	ミハエルウエクストラ(ヴァイオリニスト)、 オルガクリンスカ(ピアニスト)	10月毎火土、11月毎土	毛糸編物講習会	江口壽恵
1926.3.13	協力の真の意義	羽仁もと子(自由学園園長)	1935.1.6	新年互礼会親睦会(挨拶・講話)	原長会長・上代淑
1926.4.23	莊嚴なる存在	暁烏敏(宗教家浄土真宗)	1935.3.16	母の感激、子の感激	三田谷啓(医学博士)
1926.5.1-2	さつき會バザー		〃	古着バザー	
1926.10.2	木食上人の芸術について	柳宗悦	1935.6.1-2	さつき會バザー	
1926.10.4	音楽会	柳兼子, 船阪すま子	1936.1.6	新年互礼会親睦会(挨拶・講話)	原長会長・上代淑
11月中の4回の土曜日	精神の発達	桐原葆見(労働科学研究所)	〃	古着バザー	
	母としての児童教育	斎藤諸平(倉敷小学校校長)	1936.5.30-31	さつき會バザー	
1927.4.9	講演会	三田谷啓(阪神児童相談所長医学博士)	1936.11.14	料理講習会	田崎つる子
1927.5.21-22	さつき會バザー		1936.12.8	欧米雑感	渡辺唯雄
1927.6.15	総会及び慰労会	伊吹岩五郎(順正高等女学校)	1937.5.9	合理的炊事講習会	飯田富士(帝国栄養研究所)
1927.6.21	生活改善に就いて	塚本はま子(生活改善会理事)	1937.5.29-30	さつき會バザー	
1927.11.13	通俗食物科学	波多腰やす子(奈良女子師範学校教授)	1937.6.13	総会 慰労会	
11月より福岡土曜(日)	洋服継続講習会	和田鱗子	1937.7.10	古着バザー	
1928.4.14	懇話会を開く		1937.10.20	秋の講演会	松浦碩三(岡山合同新聞写真班北支赤案部隊軍特派員)
1928.5.26-27	さつき會バザー		1938.6.4-5	さつき會バザー	
1928.6.15	最近の支那事情について	国末保一(天城中学校教諭)	1937.6.15	陸軍病院へ慰問	
1928.11.1	婦人問題の展望	暉峻義等(労働科学研究所長)	1939.1.13	日本に於ける生活の第一印象	林道倫, エリザベス(岡山医大教授夫人)
1929.1.10	新年互礼会親睦会(講話)	上代淑	1939.5.27-28	さつき會バザー	
1929.3.26	家庭教育の本義	倉橋惣三	1939.6.11	総会 親睦会	
1929.5.25-26	さつき會バザー		1939.9.15	古着バザー	
1929.6.16	欧米視察感想談	林桂次郎	1940.1.15	新年互礼会親睦会(開会の辞・講話)	石井夫人・上代淑
1929.11.16	子供の栄養に就いて	藤巻良知(東京都衛生試験所医学博士)	1940.5.25-26	さつき會バザー	
1929.11.17	料理講習会	林寶樹(支那若力コック)	1940.6.16	物價と生活	杉山榮(合同新聞社)
1930.1.10	新年互礼会親睦会(講話)	原澄治	1940.11.1	新体制と婦人の役割	橋本富三郎(合同新聞社社長)
1930.2.26	川柳に現れたる母	厳谷小学校先生	1941.1.14	新年互礼会親睦会(年頭の辞・講演)	上代淑・橋本合同新聞社長
〃	古着バザー		1941.6.8	さつき會バザー	
1930.5.24-25	さつき會バザー		1941.9.23	新体制国策料理講習会	大田由藏(調理師)
1930.6.11	故大原壽恵子会長追悼会兼総会		1941.11.12	講演会	
1930.11.27	法律上に於ける女子の地位	鹿島鶴之助(岡山地方裁判所判事)	1942.5.17	総会	鳥越保太(倉敷高等女学校)
〃	婦人大会	香取昌康(岡山県知事)	1942.11.11	時局について	宮岸如空(合同新聞社)
1931.1.6	新年互礼会親睦会(挨拶・講話)	原長会長・秋山女学校々長	1943.1.17	新年互礼会親睦会(開会の辞・講演)	鴨井辰野幹事・多賀安部(満州新聞大阪支社長)
1931.3.11	されば我等何をなすべきか	岩橋武吉(関西学院教授)	1943.6.8	祖先を崇べ	木原シズマ(生長の家)
〃	古着バザー		1944.5.18	よろこびに満つる生活	篠原恒敬(生長の家)
1931.5.23-24	さつき會バザー		1946.7.1	「緑葉食」について	遠藤仁郎(倉敷中央病院内科医長)
1931.6.7	性教育に就いて	オールズディヴィス	1946.11.20	議事に臨みて	近藤鶴代(衆議員議員)
1931.10.26	幸福への道	高橋正雄	1947.6.1	さつき會バザー	
1932.1.6	新年互礼会親睦会(挨拶・お話)	原長会長・上代淑	1947.6.20	総会	東方牧師
1932.5.28-29	さつき會バザー		1947.12.2	体験談	剣持晴子(生長の家)
1932.6.12	法律について	渡辺小学校長	1948.5.29	さつき會バザー	
1932.11.20	支那料理講習会開催		1948.6.10	総会	外村吉之介(倉敷民芸館々長)
			1948.10.30	子どものしつけに就いて	宮崎能樹(東京阿佐ヶ谷協会牧師)
			1949.1.6	新年互礼会親睦会(講演会)	津枝(精思高等学校長)

出典「倉敷さつき會と若竹の園」181-200, 240-243.
会場は、倉敷高等女学校、若竹の園、倉敷キリスト協会、小学校、新浜園、労働科学研究所、旭町医師会館、新川校舎等であった。

保育所「若竹の園」倉敷さつき會100年の歴史

付表3「倉敷さつき會」主催 講演会・バザー —1965.5～2023.1—

年月日	さつき會活動・論題	講師			
1965.5.19	総会 福山市鞆の浦仙酔島見学		1991.6.6	総会 国民年金保養センターしもついで	
1966.1.5	新年互礼会 講演会 (山陽新聞社論説委員)	小野嘉夫	1992.1.7	新年互礼会 講演会	
1966.5.21	バザー		1992.5.19	総会 牛窓オーリーブ園見学	
1966.11.8	総会 玉島良寛社見学		1993.1.13	新年互礼会 講演会	
1967.5.20	バザー		1993.5.13	総会 NTTクリスプ300見学	
1967.6.10	総会 由加山蓮台寺見学 講和	岡山県文化財探勝会会長	1994.1.11	新年互礼会 講演会	
1968	記録なし		1994.5.26	総会 …	
1969.1.10	新年互礼会 講演会 (倉敷民芸館会長)・合唱	外村吉之介	1995.5.30	総会 松琴寺	
1969.5.10	バザー		1996.	記録なし	
1969.5.20	総会 遙照山国立天文台見学	本田実	1997.1.18	新年互礼会 講演会 (大原美術館副館長)	原道彦
1970.1.4	新年互礼会 講演会		1998.1.16	新年互礼会 講演会「若竹の園この頃」・琴演奏	溝手美津枝
1971.5.5	バザー		1998.5.14	総会 国民年金保養センターしもついで	
1971.5.28	総会 高梁市頼久寺見学		1999.1.12	新年互礼会 講演会「高齢者のリハビリテーション」	大塚哲也
1972.1.6	新年互礼会 講演会 (地藏院住職)	松井円成	1999.5.25	総会 高松市四国村見学	
1972.5.6	バザー		2000.1.14	新年互礼会 講演会「考古学から見た女性の歩み」	真壁霞子
1972.6.19	総会 岡山市松琴寺見学		2001.1.16	新年互礼会 講演会「健やかな老いを求めて」(岡大)	妹尾佐知丸
1973.1.5	新年互礼会 講演会「家庭における人間関係」	田部順子	2001.5.	総会 福山市日本はきもの博物館見学	
1973.5.12	バザー		2002.1.21	新年互礼会 講演会「私のボランティア活動」(岡県教委)	平田嬉代子
1973.6.5	総会 旧矢掛本陣石井家住宅見学		2003.1.17	新年互礼会 コンサート「ガヴァイリ&ピアノ」	竹内民夫・京子
1974.1.8	新年互礼会 講演会「最近の世相」(山陽放送社長)	巽盛三	2003.	総会 倉敷チボリ公園見学	
1975.1.10	新年互礼会 講演会 (山陽学園校長)	上代皓三	2004.1.16	新年互礼会 アカベラコンサート・若竹の園事業報告	
1976.1.9	新年互礼会 講演会「ヒマラヤを旅して」(岡山大学)	榎木栄一	2004.5.25	総会 ドイツの森・岡山ワイナリー見学	
1976.5.8	バザー		2005.1.17	新年互礼会 講演会	
1976.6.8	総会 法輪寺住職講和・羽嶋焼窯元見学		2005.5.23	総会 赤穂城跡・赤崎御岬・赤穂海浜公園見学	
1977.1.7	新年互礼会 講演会 (玉島教会名誉牧師)	河野進	2006.1.18	新年互礼会 講演会「黒潮の流れ」	小見山輝
1977.6.8	総会 伊部焼陶器館・日生森下美術館・魚市場見学		2006.5.26	総会 高梁市吹屋ふるさと村見学	
1978.1.10	新年互礼会 講演会「イワシを旅して」(倉敷教会牧師)		2007.1.11	新年互礼会 講演会「風呂敷の文化」	熊倉功夫
1978.6.2	総会 足守近水園・武家屋敷見学		2007.5.16	総会 せとうち美術館・郷屋敷等見学・ベゴニア海花園	
1979.1.9	新年互礼会 講演会 (大原美術館館長)	藤田愼一郎	2008.1.22	新年互礼会 講演会「不思議な出会い」	原圭一郎
1979.5.25	バザー		2008.5.26	玉野海洋博物館・深山公園伴りの庭園見学	
1980.1.8	新年互礼会 講演会「シルクロード東と西の架け橋」	山本遺太郎	2009.1.20	新年互礼会 講演会「児島虎次郎の足跡を訪ねて」	大原謙一郎
1980.6.8	総会 井山宝福寺見学・住職講和	岡田元亨	2009.5.12	総会 おかやま花だより見学	
1981.1.9	新年互礼会 講演会	藤田愼一郎	2010.1.22	新年互礼会 コンサート「ガヴァイリ&ピアノ」	竹内民夫・京子
1981.5.23	バザー		2010.5.19	総会 講演会「倉敷さつき會と若竹の園」	溝手美津枝
1981.6.5	総会 向山八光苑にて会食	相澤西松	2011.1.14	新年互礼会 わらべ歌遊び「わらべ歌を一緒に」	脇本幸子
1982.1.9	新年互礼会 講演会	永瀬清子	2011.5.10	総会 無医村荘見学	
1982.5.14	総会 岡山市青龍山松琴寺		2011.10.20	大原眞佐子会長を偲ぶ会	
1983.1.14	新年互礼会 講演会「新年雑感」(川崎医療短大会長)	川上亀義	2012.5.29	総会 大原あかね倉敷さつき會会長就任	
1983.5.12	総会 由加山蓮台寺見学		2013.1.17	新年互礼会 琴のコンサート	六ツ森ケイ子
1984.1.10	新年互礼会 講演会「野球と人生」	小沢馨	2013.5.21	総会 龍野市カネキ醤油工場見学	
1984.4.28	バザー		2014.1.21	新年互礼会 講演会「世界の海の生き物」	寺山秀樹
1984.6.4	総会 王子岳・野崎邸見学		2014.5.20	総会 華鶴大塚美術館・笠岡ベイファーム見学	
1985.1.9	新年互礼会 講演会	木原美知子	2015.1.13	新年互礼会 講演会「薬膳料理」	田中まり
1985.5.30	総会 夢郷土美術館・松琴寺見学		2015.5.20	総会 とっとり花回廊見学	
1986.1.6	新年互礼会 講演会「ソビエト雑感」	藤田愼一郎	2016.1.19	新年互礼会 講演会「自分史の勧め」	井久保伊登子
1986.5.30	総会 瀬戸大橋展望台見学		2016.5.20	総会 若竹の園で園児とのふれあい	
1987.1.7	新年互礼会講演会「万葉の青春」(山陽短大名教授)	大岩徳二	2017.1.31	新年互礼会 コンサート「ガヴァイリ&ピアノ」	竹内民夫・京子
1987.4.25	バザー		2017.5.23	総会 若竹の園で園児とのふれあい	
1987.5.18	総会 福山市鞆の浦仙酔島見学		2018.1.16	新年互礼会 講演会「第51次南極観測隊の生活」	岡田豊
1988.1.7	新年互礼会 講演会「倉敷の歴史」(倉敷考古館館長)	真壁忠彦	2018.5.30	総会 若竹の園園児とのふれあい 語り座大原本邸見学	
1989.5.13	バザー		2019.1.15	新年互礼会 講演会「あなたと私の「心の架け橋」つくろう」	森田恵子
1989.6.6	総会 松琴寺・オリエント美術館		2019.5.22	総会 観望会「倉敷天文台で木星を見る」と講和	原浩之 原野哲也
1990.1.12	新年互礼会 講演会		2023.1.18	新年互礼会 講演会「倉敷さつき會100年の歴史」	高月教恵

出典「倉敷さつき會創立100周年記念誌」, 60-62

※記録不明は…と記した。1065年～現在までの新年互礼会会場は、竹中幼稚園(1969)、

さんくとべるてん旧館(1970・1972・1974・1975)、キリスト教鶴形会館(1973)、ア
イビースクエア(1981・2012)以外は倉敷国際ホテルであった。

2019年6月から2022年までコロナ禍のため、総会・新年互礼会は開催されなかった。

